

【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	多様化、複雑化している子育てニーズを的確に捉え、市内の子育て支援団体等の知識や経験等を活かし、きめ細かで効果的な行政サービスを提供することにより、「協働による子育て支援ネットワークの整備」の達成に向けて取り組むため。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 市は、幅広い告知や関係各所との迅速かつ柔軟な連携により、情報発信の充実を図る。 運営者は、ニーズを把握するとともに、事業内容の充実を図り、地域交流や多世代交流の活性化に取り組む。
	【達成できた点・達成できなかった点】 ・広報かまくらや市の公式 LINE などにより、積極的な情報発信を行うことができた。 ・イベント実施回数及び月 1 回の日曜日開所、夏休み期間中の開所日数の増加を実施した。また、春夏秋にかけてチラシを発行するなど積極的な周知活動も実施したことにより、来館者数の大幅な増加につながった。
相互評価 ※上手くいったこと 問題点・課題など	【事業実施前】★3 ○市 令和 5 年度に共有した課題及び成果を踏まえて、令和 6 年度の課題を「未就学親子から高校生、多様な環境の子どもたちの受入れ」・「あそび（場）が必要！～あそびを通して、子どもたちの置かれている環境をみんなで考え、つながる～」・「地域交流、多世代交流の活性化」・「広報活動の強化」とし、共有した。 ○団体 令和 5 年度事業成果と課題項目を上げ、令和 6 年度の課題として以下 4 点を挙げた。 「未就学親子から高校生、多様な環境の子どもたちの受入れ」・「あそび（場）が必要！～あそびを通して、子どもたちの置かれている環境をみんなで考え、つながる～」・「地域交流、多世代交流の活性化」・「広報活動の強化」
	【事業実施中】★4 ○市 随時状況を共有しながら、役割分担に基づき、事業を進めることができた。 広報活動として、市の公式 LINE による定期的な情報配信を実施したほか、チラシを全小中学校、保育園並びに幼稚園などの子育て関連施設へ配布し、周知を図った。 出張冒険遊び場の実施にあたり、青少年課、みどり公園課や各消防署と連携を行った。 冒険遊び場協働運営事業の推進に関し、幅広く意見を聴取し、検討するため、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会（以下「検討委員会」とする。）を設置し、議題に応じて年 1～2 回実施している。 検討委員会への報告にあたっては、利用者数や事業の費用についてのほか、課題である「居場所としての役割強化」・「地域・多世代交流の活性化」・「冒険遊び場事業の周知」について報告した。 ○団体 定例会で担当課と随時状況を共有し、その都度事業の課題や施設の修繕など、問題の解決に努めた。 地域住民をスタッフ・ボランティア、おやこサロンの講師として起用。イベント時は企画段階から関わってもらい、地域のみんなで作る遊び場につながった。また深沢支援セ

	ンターと継続的に連携をとり、情報交換やお互いの活動の周知に努めた。 多様な子どもたちの居場所となるよう、常にスタッフ同士で子どもたちの様子を共有。寄り添いながら見守りを続けた。 広報活動として、こども支援課を通して、鎌倉市公式 LINE 配信を依頼。また、ホームページや SNS、法人の公式 LINE でイベント情報の告知や活動報告などを行い、チラシを全小学校、保育園並びに幼稚園へ配布した。 【事業終了時】 ★5 ○市 イベント実施回数の増加や夏休み期間での木曜日開所や月 1 回の日曜日開所により、遊び場の利用人数は増加した。 出張冒険遊び場では地域住民・地元工務店の協力を得られながら、子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる場とすることができ、参加者数も増加した。引き続き、広報や SNS 等を活用しながら周知活動を行い、事業の継続を図りたい。 ○団体 多様な子どもたちの受け入れとして、ヤングケアラーと子どもの権利についての周知イベントを開催することができた。ヤングケアラー支援として、周知イベントを実施。子どもの権利について、ヤングケアラーとは？の周知、ワークショップにて「あなたの気持ちをきかせて」への記入時間をつくった。参加親子を地域の居場所を紹介できた。また、後日こどもから、「こんな権利があるんだよ～」といった会話もしており、支援につながり、認識の広がりを確認できた。 また不登校の子どもたちの支援として、居場所として登録、夏休み明けの「#学校ムリでもここあるよ」っキャンペーンに登録した。また、 利用者からの兼ねてからの要望で梶原の駐輪スペースを 1 台分の駐車場として開放した。徐々に利用され始めている。 出張冒険遊び場では地域のスタッフの方に遊び内容を検討するところから積極的に参加していただいた。
今後の展望	「地域に根ざした遊び場、年齢に切れ目のない、だれでも利用できる居場所づくり」を行う。 幼児（未就学児）から小中高校生まで子育て情報の連携・交換の場が必要と考え、遊び場に機能を持たせ、地域で子育てできる場の一つとして、遊び場の充実を図る。 必要に応じて、青少年課など他課とも話し合いの場をもち、随時課題共有を行う。今後も引き続き、かまくら冒険遊び場梶原の日曜開所や出張冒険遊び場の実施回数の増加などに向けて検討を行う。